

[連載対談] 町亞聖がその素顔に迫る

# リーダーたちの肖像

— Asei Meets Senior Market Leaders —

## 32. Yuichi Miyazawa

インタビュー  
町亞聖



ゲスト  
宮澤裕一氏  
〔株式会社ウイズネット代表取締役社長〕

介護保険制度施行から18年あまり。シニア・ヘルスケア業界を牽引する経営者や第一人者たちは、  
いかにして現在のポジションを築いたのか。

日頃の取材活動では聞くことのできない、彼らの知られざる人となり、

自身も両親の介護経験をもつ、フリーアナウンサーの町亞聖氏が鋭く切り込む。

今回は、グループホームをはじめ、有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護など200事業所を埼玉、東京、  
神奈川に展開、2016年にALSOKグループに加わったウイズネット・宮澤裕一代表取締役社長に登場いただいた。

### ALSOKをいったん辞め ペルー日本大使館に勤務

町●宮澤さんはALSOK(総合警備保障  
(株))のご出身とうかがっていますが、も  
ともセキュリティ分野に関心があった  
のですか。

宮澤●全然そんなことはなく、大学では  
工学部でしたので、システムや電子工学  
が専門だったのですが、尊敬する先生方  
に進路の相談をしたときに「これからは  
セキュリティの時代だ」と、紹介いた  
いたのが縁で入社しました。

当時の警備業は大きなホテルや高層ビ  
ル、銀行の本店、百貨店など、人やお金  
が集まる場所を「人間が警備する」とい  
う労働集約産業でした。それが、システ  
ム化によって機械警備の時代となり、一  
般家庭にも普及するなど、時代のニーズ  
や技術の進化により、警備業そのものが  
形を変えてきたように思います。

いまでは当たり前となっているコンピ  
ニのATMですが、現在はそのほとんど  
を警備会社が管理しています。私が滋賀  
の支社長だった時代に西日本の金融機関  
ではじめてコンビニATMが採用され、  
その実績が評価されて、セブンイレブン  
さんのATMは、全店でALSOKが管  
理させていただいています。

町●時代とともにセキュリティ会社に求  
められる役割も変わってきているのです

ね。ところでプロフィールを拝見すると、途中、外務省入省、在ペルー日本国大使館勤務とあります。

**宮澤** ● 本来は官庁間の人事交流として、警察庁、防衛省、法務省等の公務員が在外公館のセキュリティ部門を担当するのですが、民間からも人材を要請されたことを受け、1度ALSOCKを退職して、3年ほどペルー日本国大使館の警備対策官として勤務いたしました。

**町** ● 当時のペルーは治安が不安定だったのではないのでしょうか。

**宮澤** ● フジモリさんがはじめて大統領になる瞬間に立ち会えました。一方で、政局が変わる時期で警戒態勢でしたから、毎日のように街なかで爆発音や爆発の振動に反応した自動車の警報音、さらに機関銃の音がどこかで鳴っているような状況でした。最初は身重の妻と長男も連れてきていたのですが、こうした状況や医療面も考慮して、先に日本に帰りましたので、次男の出産には立ち会えませんでした。ただ、日本では経験できない貴重な体験ではありました。そして帰国後、ALSOCKに復職し、総務部課長代理や滋賀支社長、開発企画部長、人事部長などを歴任いたしました。

## 警備から見守り、そして介護へ

### 顧客ニーズに応じ事業領域を拡大

**町** ● グループとして介護事業を手掛ける

ようになったことも、顧客からのニーズに添えていったのでしょうか。

**宮澤** ● 当初、自宅向けの警備というと、お金持ちの一戸建てというのが相場でしたが、「ホームセキュリティ」という言葉とともに一般の家庭にも普及し、マンションや単身者向けのアパートなど、どんな裾野が広がっていきました。すると今度は単身高齢者の「見守り」というニーズが顕在化してきました。「相談」ボタンを押せば、「緊急」ボタンを押せばガードマンがお預かりした鍵を使って駆けつける。そうやって、単身の高齢者の方に「安心」を担保しているわけですが、ご利用者から「自宅の鍵を預けるくらい信用しているのだから、1人で住めなくなったらどこか紹介してくれないか」というお声を少なからずいただくようになりました。グループとしてもお客様ニーズに応えながら業容を拡大してきたDNAがありますから、「紹介するのであれば、自ら手掛けよう」となり、2012年にALSOCKケアという会社を立ち上げ、居宅介護支援、訪問介護事業所を3カ所で開設しました。

とはいえ、立上げが6年前ですから、かなりの後発です。自前でコトコツやっていたら相応の規模になるには多大な時間がかかりますので、「時間を買う」という考え方に軌道修正し、14年に㈱HCM

15年にアズビルあんしんケアサポート㈱（現・ALSOCKあんしんケアサポート㈱）、そして、16年に当社がグループ入りして現在に至っています。ウイズネットは98年の設立ですので、今年がちょうど20年の節目の年でもあります。

**町** ● ALSOCKがウイズネットをM&Aした特別な理由があったのですか。

**宮澤** ● 先の2社が在宅系に強かったので、居住系、特にグループホームが中心であったことは魅力でした。当社がグループ入りすることで、在宅・居住系のバランスがとれ、多様な介護サービスを提供できる素地が整えられると考えました。

**町** ● ウイズネットの社長を、というのはどんな流れで決まったのですか。

**宮澤** ● M&Aの担当だったことと、ALSOCKあんしんケアサポートの社長を非常勤で兼務していたこともあり、その流れで「お前がやれ」と……。昨年3月まではALSOCKとの兼務でしたが、実際は週5日のうち4日以上ウイズネットの仕事をしていましたね。それでも身体が足りないということで、昨年4月からはこちらに全力投球することになりました。

私はいま62歳ですが、還暦を迎えたタイミングで新しい分野に挑戦できる機会をいただいたことはありがたいと思いました。これまでの人生でさまざまな上司や先輩に恵まれましたので、この仕事を

通じて、次世代に「恩送り」のようなことができたかと考えています。

**町** ● 電子工学を学び、警備会社に就職した宮澤さんにとって、介護の仕事への抵抗感のようなものはなかったのですか。

**宮澤** ● ビックリこそしましたが、それはなかったですね。というのも、91歳の実の母が軽い脳梗塞を起こして以降、認知症が進行し、都内の軽費老人ホームでお世話になっています。そこは、お元気な方が対象なのですが、ホームを訪れるとスタッフの方が一生懸命、入居者のお世話をしてくださっている姿を見ていました。母は元気なほうですが、それでもつい強い口調で怒ってしまうこともありましたので、「家族介護」のむずかしさは肌で感じるところでした。著書も拝見しま

